

○ 令和6年度の移行方法の実際について

委員：今までの部活動を行っていた2年生は従来通りで、新1年生は新しい部活に入ることになるのか？

事務局：2年生は続けてもいいし、新しく移動することもありとするのか、これから検討する内容になる。移動できる枠がある方が、よいかもしれない。

委員：9月から新しい部活動の枠になるということになると、そこに流れる可能性は高いと思う。

○ 指導者の確保について

委員：地域移行を進める場合、指導者をどのように確保していくのか？

委員：指導者については、広域で考えるべきではないか？

事務局：県の取組として人材バンクがある。地域の指導者を探ることからはじめ、高校の指導者や大学生など、色々な手段を模索していきたい。

○ 地域移行の進め方について

委員：地域移行は行政が自治体単位で進めるべきなのか？

事務局：内子町は、事務局の案として、今の学校をベースにしながら、自治体で考えようとしている。

アドバイザー：他地域の情報として、宇和島は総合クラブで進めようとしている。松山市は学校単位で人材確保を考えている。松山にはONOSポーツクラブ等のスポーツクラブを総合型として活用していく広がりもあるかもしれない。しっかり全体の案を持って進めようとしているのは、喜多郡が1番よく進んでいる印象を持っている。

事務局：自治体が進める上で、やはり運営主体を作らないと難しい面があることを感じている。

○ 地域移行の方向性について

委員：子どものニーズにこたえられる仕組みができればよい。今まで知らなかったようなことも分かり、今後もしっかりと考えていきたい。

委員：アンケート結果は、教員の気持ちなどの実態がよく分かる。いろいろな意見があり参考になるが、みんなで協力しようという意見も出てきてほしい。町外との連携も見据えながら、移行を考えていきたい。

委員：保護者への情報共有は大切になる。正しく伝えながら、誤解のないようにしていかなければならないと感じる。

委員：関わりたいけれども、仕事が忙しく関わるできないというのが教員の本音だろう。他の仕事の方も同様のはず。そんな中、部活動を移行していくという情報をしっかりと示していくことが大切になると思う。